

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 専門学校生とともに『魅力ある職業教育』と『学びの県づくり』について考える

日時 平成31年3月9日（土）13:30～15:30

場所 学校法人秋桜会 丸の内ビジネス専門学校（松本市）

目次

- 1 開会 P 1
- 2 知事あいさつ P 2
- 3 内川校長あいさつ P 5
- 4 ディスカッション P 5
- 5 知事総括コメント P 40
- 6 閉会 P 41

【参加者 40人】

進行役：内川小百合 氏（丸の内ビジネス専門学校 校長）

1 開会

【広報県民課長 加藤 浩】

皆さん、こんにちは。長野県広報県民課長の加藤浩と申します。どうぞよろしくお
願いします。

それでは「県政タウンミーティング」を始めたいと思います。今日は皆さんと一緒に、
魅力ある職業教育と学びの県づくりについて考えていきたいと思っています。楽に話
をしてもらいたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

県からは、阿部守一長野県知事、それから布山澄私学振興課長が出席をしてくださ
います。よろしくお願ひします。

それから今日は手話通訳の方をお願いしています。よろしくお祈いします。長野県では、手話言語条例という決まりをつくって、手話を皆さんで親しんでいてもらいたいという取組をしていますので、ぜひ知っていただきたいと思ひます。

今日はこういった形で公開の場で話をしていきたく思ひています。皆さんの発言は、お名前を伏せた上で、県のホームページで県民の皆さんと共有していきたく思ひますので、承知をしておいてください。

それでは初めに、阿部知事からあいさつを申し上げます。知事、よろしくお祈いします。

2 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

今日は、皆さんお忙しいところ、この県政タウンミーティングにお集まりいただきまして大変ありがとうございます。今、紹介してもらいました、県知事の阿部守一です。

今日は内川校長に進行役をお願いして、皆さんと一緒に、楽しく気楽に長野県の未来と、そして皆さんの未来について一緒に語り合いたいというふうに思ひます。

最初にちょっと一言だけ、今日の問題意識、私なりに問題意識をお話ししますので、ちょっと2～3分、お話ししたいと思ひます。

今日、皆さんとお話ししたいと思ひているテーマは大きく2つです。1つは、今、長野県は学びの県づくりを進めていきたく思ひたいというふうに思ひています。これは、長野県は教育県というふうに言われてきましたが、最近は、県民の皆さんもあまり教育県ではないんじゃないかというふうに思ひようになっています。これ、例えば大学への進学率だったり、あるいは全国学力テストの成績だったり、47都道府県がある中で長野県が別にトップのほうじゃないよねということが、いろいろな人からデータで伝わっているので、そういうふうに感じているんだと思ひますけれども、教育県というのは一体どんなことなのかというふうに考えると、昔から学力テストがあったわけでもなくて、別に大学進学率を47都道府県で競っていたわけではないんですよ。では、何で教育県と言われていたかという、幾つか要因があると思ひますけれども、1つは幕末期に寺子屋が多くて、明治維新になって小学校の就学率が日本で最も高かったのが長野県なんですね。

それって学力テストの成績ではなくて、長野県の人たちが教育に対しての強い思いを持っていたからですよ。昔は農業をやったりして若い子どももみんな労働力

だった時代ですけれども、それでも、みんな学校へ行かせようと、例えば松本だったら開智学校という立派な学校がありますけれども、みんなでお金を出し合って学校をつくろうという、やっぱり教育とか人づくりに対して強い思いがあったのが長野県。

そしてもう一つは、いろいろな教育者を輩出しているの、教育を長野県から、ある意味つくっていったと言っても、私は過言じゃないんじゃないかというふうに思っています。

一つ、例を申し上げますと、私はこうやって長野県の知事をさせていただいていますけれども、東京で生まれ育って東京の学校へ行っています。私が出た高校は東京都立西高等学校というところなんですよ。私、ずっと知らなかったんですけれども、最近、同窓会報を送ってきたので見たら、今の都立西高校の前身の東京府立第十中学校の初代校長先生は白沢清人先生なんですよ。あまり知らないと思いますけれども、白沢清人先生ってどんな人かといったら、旧制長野中学校の校長をしていた人なんですよ。

この間、長野高校へ行って校長室に行ったら、本当に白沢清人先生の名前が壁にかかっている、私は東京の学校ですよ。何でかと調べたら、やっぱり当時、新しい学校を当時の東京府がつくろうというときに、長野県の長野中学の校長をやっていた白沢清人先生を、今でいうところのヘッドハンティングをしたんですよ。

だから、一つの例ですけれども、やっぱり長野県の人たちがいろいろなところに行って教育者として活躍して、日本の教育の基礎をつくってきたという部分もあります。そういう意味で教育県と言われてきました。

私は、学力テスト云々ということよりは、例えば教育一つに対する熱意とか思いを持っている人たちが多くという意味では、まだ長野県は教育県ではないかというふうに思っています。

私は『学びの県づくり』と先ほど言いましたよね。何で『教育県』と言わないんだというふうに思われると思いますけれども、教育って、どうしても主語が教える側、ちょっと今日は教室形式になっていますけれども、教育って私が教える人、みんな教えられる人という形になりますけれども、学びというのは学ぶ人たちが主体なんで、これからの時代というのは、一人一人が主体的に学ぶ時代でなければいけないなというふうに思いますので、そういう意味で長野県を、教育県再生ということではなくて、一人一人が、人生 100 年時代ですし、時代が急速に変化していますので常に学び続けていく、そういう県として活力を発揮をしていきたいなという思いで、学びの県づくりということを行っています。

今日は、この学びって、皆さんにとってどんなものなのかとか、あるいはこれからの長野県における学び、これは小・中学校の学びもあれば、皆さんみたいに高等教育における学びもあれば、そして私のように社会人になってからも学び続ける県にならなければいけないと思いますので、多様な学びのあり方について、皆さんの意見を聞きたいなというふうに思っています。

それからもう一つは、『郷学郷就県づくり』、信州で学ぼう、信州で働こう、こういうことを言っています。

長野県出身の人たちはわかると思いますけれども、高校を出ると、結構県外へ行ってしまいます。それは大学へ行ったり専門学校へ行ったり。私はもちろん、県外とか海外とか行く人の足を引っ張るつもりは全くないんですけれども、でももっともって長野県で定着して学んでもらえるんじゃないかなと。あるいは、例えば去年、新しい県立大学をつくりましたけれども、例えば長野県にはまだ無いカリキュラムや特色のある学びをつくれればもっともって定着してもらえないかというふうに思っていますし、それと同時に就職するときも、専門学校の皆さんは県内の就職率が非常に高いんですけれども、私が若い人たちと話しをすると、実は長野県に生まれ育った人たちも、あまり長野県の企業とか産業のことを知らないで、テレビを見ると何か都会の企業の名前がいっぱい出てくるので、そっちへ行ってしまおうけれども、でも、足もとを見つめれば地域にもグローバルに活躍している企業もたくさんあるし、あるいは、農業や林業だってこれからは海外への輸出を考えていかなければいけないグローバル産業になってくるわけで、そういう意味で、若い人たちが長野県にもっともって定着してもらえるようにしたい、あるいはもっともって県外からも、あるいは海外からも来てもらって、長野県で学んで長野県で働いてもらえるように、そういう県にしていきたいというふうに思っています。

でも、まだ多分、もっともって魅力を上げなければいけないところがあると思いますし、皆さんからすると、さっき私が言ったように、例えばいろいろな企業があるといっても、そんな情報は入ってこないよというところもあると思うので、そういうこともぜひ皆さんと一緒に考えさせてもらって、長野県で多くの若者たちが学びたくなる、そして働きたくなる、そうした県になるにはどうしていけばいいのかということも、一緒に考えたいなというふうに思います。

ちょっと長く話してしまいましたけれども、私はそういう思いで今日は来させていただいていますので、ぜひ、皆さんとは楽しく、有意義な話し合いをしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【加藤広報県民課長】

それでは、今日ご参加いただきました、先生と生徒の皆様を代表して、内川小百合丸の内ビジネス専門学校長から、一言ごあいさつを頂戴したいと思います。お願いします。

3 内川校長あいさつ

【内川校長】

皆様、こんにちは。私は丸の内ビジネス専門学校の校長をしております内川と申します。今日は阿部知事が私どもの学校を会場としてタウンミーティングにお出でいただきましたこと、本当に心から感謝を申し上げます。

学生たちにとりまして、こんなに間近に県知事さんの顔を拝見して、そして自分たちの声を聞いていただけるというのはめったにないチャンスです。今、お話にもありましたように長野県は学びの県。若い人たちが今、何を考えて行動しようとしているのか、そして将来、どんな仕事をして長野県を支えてくれるのか、そんなことも期待しています。

今日は中信地区の専門学校の学生と、それから卒業生と、それから学校の先生方がお集まりです。阿部知事からのお話を聞いたり、私たちが思っていることを率直にお話して、楽しい素敵な時間になればいいかなと思います。

では、どうぞよろしくをお願いします。

【加藤広報県民課長】

ありがとうございました。それでは、以降の進行を内川校長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

4 ディスカッション

【進行役：内川校長】

では皆さん、改めまして、本日の進行役を務めさせていただきます。

今日は中信地区のたくさんの学生に集まっていただきましたけれども、最初に、まず自分がどこの学校で何を学んでいるかということをお聞きしたいと思って、自己紹介を最初にしていただこうと思います。

学校名とお名前だけをまずお話ししていただけますか、どちらからにしますか、こちらからやりますか、では学校名からお願いします。

(学生・教員自己紹介)

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。それでは各学校から少し学校の様子やら、ご自分の様子やらということで、代表の方に幾つかお話をさせていただこうと思います。

では、最初は丸の内ビジネス専門学校の A さんから、お願いいたします。

○A さん

皆さん、こんにちは。私、A と申します。今、松本市丸の内ビジネス専門学校の国際関係学科、日本語教師養成コースで勉強しております。

いつもいろいろな方から何で日本に来たんですか、何で松本を選んだんですか、みたいな質問をされることがありまして、私、4月生まれなのですが、4月といたら日本では桜の季節ですね。インターネットで桜の写真を見て、すごくきれいだなと思ひまして、ぜひ、一回見にいきたいと思ひました。それで、丸の内ビジネス専門学校で勉強している先輩から、松本城の桜はすごくきれいだよと教えてもらって、それをきっかけに松本に来てこの学校に入りました。ありがとうございます。

【進行役：内川校長】

それでは2番目に、松本調理師製菓師専門学校の B さん、お願いいたします。

○B さん

自分が調理師製菓師学校に入ったきっかけは、友だちが1年上で行っていて、楽しいと聞いて、きっかけはそれだったんですけども、もともと、そういうのを作っていたりしていたこともあって入らせていただきました。

今は手に職を持つ時代と言われているので、そういうこともあって行きたいなと思ひました。今やっている実習では知らないことや、あまり興味を持たなかった方面のことも新しく知ることができて、今はとても楽しいです。

【進行役：内川校長】

では、次は松本理容美容専門学校、Cさん、お願いします。

○Cさん

松本理容美容専門学校から来ましたCです。私が松本理容美容専門学校に入った理由は、県外の学校と県内の学校を比べてみて、美容師さんから県外の美容学校はすごくいろいろな面で大変だと聞く中で、県外の学校となると、ひとり暮らしで家に帰って自分で家事とか、そしてバイトとか、いろいろやらなければいけない中で、県内だと学校生活が大変でも家に帰れば家族がいて心も休まるというのも聞いて、県内の学校に決めました。

今、学校では将来、就職するのに役立つ、パーソナルカラー検定とかメイクの検定とか、あと、そのコミュニケーションの検定とか、いろいろな検定も取らせていただいて、すごく松本理容美容専門学校に入ってよかったなと思っています。

【長野県知事 阿部守一】

はい、どうもありがとうございます。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。では次は松本情報工科専門学校のDさん、お願いできますか。

○Dさん

松本情報工科専門学校の自動車整備学科のDです。この学校を選んだ理由とかは特に深い意味とかはなく、自動車に興味があって、高校のときに進学先を探しているときに偶然見つけた学校で、それで進学しました。先輩も同学年の人でも女子は一人もいないんですけれども、その中でもいろいろな人と話しながら作業をしたり、あと、先生とかがみんな実際にディーラーさんとかで経験を積んできた人たちなので、そのときの経験の話とかを聞きながら勉強ができるので、すごい身についている感じがします。

就職とかもいろいろあるんですけれども、一応、地元のディーラーさんで内定をいただいたので、あとは整備士の資格が取れるように、しっかり、あともう1年、学びたいと思います。

【長野県知事 阿部守一】

頑張ってください。

【進行役：内川校長】

では、大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校の E さん、お願いできますか。

○E さん

こんにちは、大原学園松本校の医療コースに在籍しております E と申します。本日はよろしくお願ひいたします。

私が大原学園松本校に入学した理由ですが、私は地元が南信地区のほうなんですが、ひとり暮らしを行いたいという理由で松本校に入学いたしました。今、医療事務の勉強をしております、最近ですと、医療事務の実習を病院でさせていただきました、いろいろ学ばせていただきました。県外へ就職するのではなく、私は地元のほうへ貢献したいという気持ちから、地元のほうに就職を考えております。また 1 年間、勉強してきて資格を多く取得してきましたので、それらを生かして、来年度、就職を考えております。

【長野県知事 阿部守一】

よろしくお願ひします。

【進行役：内川校長】

では、もうひとつ、信州介護福祉専門学校の F さん、お願いできますか。

○F さん

信州介護福祉専門学校の F と申します。私がこの学校に入った理由なんですけれども、私は幼いころから祖父母と一緒に暮らしていて、祖父母がだんだん弱っていく姿を見て何か力になりたいなと思ったのがきっかけで、とても尊敬していた高校のときの担任の先生に、介護福祉士の道を勧めていただいて、この学校に入学させていただきました。

この学校に入って、男子は私一人なんですけれども、少人数制ということで、先生方から決め細やかな指導をいただいているので、とてもためになっています。

【長野県知事 阿部守一】

頑張ってください。

【進行役：内川校長】

では、今、分野が違う6名の学生さんから、まずご自分のことを紹介していただきました。阿部知事のほうから何かありましたらお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

では、最初に6人の方に口火を切っていただいたので、ちょっと幾つかテーマ分けして、皆さんと対話をしたいなと思います。

最初、Aさん、留学生で来ていただいて、今日留学生の方は何人いらっしゃいますか？

【進行役：内川校長】

手を挙げて、留学生は？

3人ですね。

【長野県知事 阿部守一】

さっきAさんは、4月生まれで桜がきれいな信州、日本、松本を選んだのはどうしてなんですか、松本の桜を紹介してもらったの？

○Aさん

そうですね。先輩が丸の内ビジネス専門学校にいたので。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。そのほかのお二人、GさんとHさんはどうして信州を選んでくれたの？

○Gさん

先輩から・・・

【長野県知事 阿部守一】

先輩からいいよと言われたんですね。

○Gさん

そう、いい学校だと言われたから。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど、ありがとうございます。Hさんは？

○Hさん

松本はすごく住みやすい町と思います。日本の文化が残る町。

【長野県知事 阿部守一】

松本はどういうことで選んだんですか？

○Hさん

故郷の町に似ている。住みやすい。

【長野県知事 阿部守一】

故郷の町に似てるね、そうなんだ。なるほど、ありがとうございます。

長野県は、インバウンドでの外国からのお客さん、去年の官公庁の統計の速報値だと146万人泊と増えています。松本も結構、外国人がふえていますよね。

これから、外国の方に対する就労ビザもだいぶ緩和をされてくるので、今、日本全体はどんどん人口が減っていて、今、長野県でも有効求人倍率という、要するにどれぐらい企業が求人をしていてどれぐらい職を求めているかというもので、ずっと1.6倍とか1.7倍ですから、求人している企業のほうが仕事を探している人たちよりも多いんですね。ですから、これから外国人の方にももっと活躍していただけるような県に、まずしていかなければいけないと思っています。

これ、内川校長に聞くほうがいいかな。外国人を受け入れていて、例えば県内にもっと就職してもらおうとか、あるいはもっと長野県に海外から来てもらえるようにするにはどういう工夫とか、何が課題ですかね。ちょっと進行役に振ってしまって申しわけないんですが。

【進行役：内川校長】

実は私ども留学生を受け入れて 30 年になるんですね。この 10 年間というのは信州がいいとか、松本がいいということで、かつては東京とか横浜とか大阪が多かったんですが、今はやっぱり勉強する地ということで、ピンポイントで松本に来てくれる留学生も増えました。先ほど留学生から話がありましたように、先輩から聞いて、ここだったら安全に暮らせて勉強できて就職ができるということで、みんな来ます。

今、G さんは日本語コースというところで日本語を勉強しまして、その後、A さんは、日本語教師養成のコースというのがあるんですね、国際関係学科というのがあります。そこで今、教えるほうの授業、それから H さんがビジネス科というところで、多分将来、会社をつくるんだよね、日本で。日本で会社をつくりたい、お店をつくりたいというような、そういう夢を持って、やっぱり留学生が来ます。私たちはその子たちをぜひ信州、できれば、私は松本なので、信州松本を目指して来てねということで、世界、今、20 カ国から留学生に来てもらっています。

受け入れはやっぱり大変は大変ですけれども、彼らの夢をかなえるために就職まではサポートしようとしているんですが、就職先でもとても大きな力になって頑張ってくれています。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。ちょっと 3 人の方にもう一回、お伺いしますけれども、就職は、働く場所はどこにするんですか、自分の国に戻るの、さっき H さんは日本で起業したいと。長野県ですでしてくれますか？

○H さん

長野で。

【長野県知事 阿部守一】

あと、A さんと G さんはどこで、どういう仕事をしたいの？

○A さん

今、丸の内ビジネス専門学校で国際関係学科日本語教師養成コースで勉強しているので、あと 1 年頑張ってお勉強して、日本語の関係がある仕事とかをしたい。

【長野県知事 阿部守一】

どこで？向こうに戻って？日本で？

○Aさん

日本です。そうですね、日本で。

【長野県知事 阿部守一】

では、そのときは、松本もいいし、信州でお願いします。

○Aさん

よろしくお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

Gさんは？

○Gさん

松本には先輩もいるから、一緒に働きます。

【長野県知事 阿部守一】

そうなんですね、わかりました。桜がきれいだとか、故郷に似ているとかとほめてもらいましたけれども、もっとこうしてほしいというのはありますか、外国人の皆さん方から見て、これが不便だよ長野県、これが困っている長野県というのは何かありますか？

【進行役：内川校長】

この際だから、奨学金がほしいとか言ったら・・・

【長野県知事 阿部守一】

奨学金…。全部自費なの？

【進行役：内川校長】

全部、自費です。学費から生活費も全部。

【長野県知事 阿部守一】

日本は物価が高いですか、ちょっと国にもよるけれども、Gさんは、だいぶ高い気がしますか？

○Gさん

高いですね。

【長野県知事 阿部守一】

高い、なるほど。ちょっと内川校長と後で相談しますね。

私は長野県で働いてもらえるのなら奨学金制度とかがあってもいいんじゃないかと思えますね。

実は、昨日県議会が終わって、来年度予算を成立させてもらったんですけど、今、日本は東京に人口が一極集中しているのが問題だという話なので、東京で働いていて長野県に戻ってくる人には、一人100万円上げる。そんなことに使うんなら、留学生に使えるといわれちゃいそうなので、ちょっとまた考えますね。

【進行役：内川校長】

ぜひ、ぜひそこはお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

わかりました、ありがとうございます。それから、いいですか、ちょっとこんな感じで進めちゃって大丈夫ですか、すみません。

Bさんは手に職を持つ時代だと思うと言ったじゃないですか、自分は何したいの？

○Bさん

一応、学校に入ったときには洋菓子の道に進んで、できれば自分の店を出したいなとは思っていたんですけども、実際にやっていて、パンも楽しそうだなと思って、春休み中に校外実習で実際にお店で働かせてもらって、つらいこととかも聞いて、なおさらパン屋になりたい気がする。

【長野県知事 阿部守一】

つらいことを聞いて、やる気になったという。

○Bさん

けれども、楽しいこととかも聞けたので、今はパン屋になって、できれば自分の店をつくりたいなと思っています。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど、なるほど。今、パン屋さんも、おいしいパンをつくっているとすごい繁盛しているね。いっぱい儲けて、県にも税金を納めてください。

Bさんの手に職を持つ時代だという話というのは、多分、皆さんにもある程度共通しているような気がするんですけども、先ほど教育って、例えば小学校、中学校は大体みんな同じような教育を受けて、高校は、例えば普通科とか職業科があって分かれて、高等教育は、何というか、ジェネラリスト育成みたいな。看護大みたいに専門的なことをやる大学もあるけれども、専門学校の人たちのほうがピンポイントで手に職をつけようとか、こここのところの専門家になってやろうという感じが強いと思うんですけども。皆さん専門学校を選んだ動機というのは何ですか、Dさんでしたか、あなたは、さっきの話だと、自動車が好きだからということで、ですよ。自動車が好きだからもうそれで、その好きなことを仕事にしようと思って専門学校を選んだの？

○Dさん

興味があって、それでそういう仕事をしてみたいくて、それだったらちゃんと整備知識が身につけられる、まず勉強しようと思って専門学校を選びました。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。ちょっとみんないろいろ、さっき発表してくれた人以外でも、結構、分野が特化しているじゃないですか、専門学校って、実は分野が特化しているじゃないですか、医療コースはどんな勉強をしているの？

○Eさん

医療事務の資格を取得するために、医療請求事務の検定を取得するために勉強して

おります。

【長野県知事 阿部守一】

結構、専門学校へ行って資格を取ることが多いんだと思うんですね。みんな何らかの資格を目指しているの、ここで何か免許とか資格とか取るというふうを目指してやっている人というのはどれぐらいいるの？ほとんど。そうじゃない人もいるの、3列目のみんなは違うの？

Iさん、Jさん、Kさんは。Kさんはもう卒業しているの、Kさん、今、何やっているんですか？

○Kさん

現在は、諏訪地域にあります市町村役場で勤務しております。

【長野県知事 阿部守一】

市町村の職員なんですね、そうすると公務員試験を通るようなこと、それが資格みたいな感じになっていると、それで勉強しているんですね、なるほど。

JさんとIさんもそういう感じなの、やっぱり皆さん何かの試験とか資格を取るといことなんですかね。そうするとやっぱり結構、目的意識が明確なんですね。

さっきBさんは最初、お菓子と思ったけれども、パンがいいかなとなったけれども、皆さん、最初に入るときと、少し勉強してみて、もう少しこういうこともやってみようかなというふうに変わる人もいるの、それとも、ここに入ってこの道一筋だというような感覚なの、どんな感じなの？初志貫徹の人は？

では資格を皆さん取ろうとして頑張っていて、ちょっと、内川校長がいるから聞きづらいんだけど、資格を取るのには専門学校すごい役立っていますか？満足していると。逆にちょっと、もうちょっとこういうふうにしてくれないかなという意見はあるの？みんな満足している？

そうか、ではそうしたら、さっき私が言ったように、ぜひ多くの人たちには長野県に就職してもらいたいなと私は思っているんですよ。だけど、別にそれ強制はしないし、世界にはばたいてもいいし、県外へ出て行っていてもいいんだけど、ちょっとここにいる皆さんの中で、私は長野県内に就職したいと思っている人ってどれぐらいいるの。ほとんど、ほとんど。ありがとうございます。ちゃんといい県にするように頑張りますのでよろしくお願いします。

では、やっぱり県内じゃなくて、県外へ行こうかなと思っている人ってどれぐらいいるの。そこの二人はどういうところで仕事をしようと思っているの？

○Lさん

私は情報システム科というICTを学んでいる学科なんですけれども、県内に就職することと都心のほうへ就職すること、今、ちょっと迷ってはいるんですけども、やはりICTという情報の技術というのは都心のほうがより早く情報が回ったりとか、やっぱりいち早く早い技術とか最新の技術を身につけられるという意味で、やはり都心にいたほうが、自分の技術力やスキルアップにつながるということを考えています。

ただ、その県内の専門学校には先輩の就職実績とか、やはり県内の専門学校といたら県内の企業さんとしかできないつながりもあると思うので、自分が今、どっちを取るのか、最新の技術を取る、多くを身に付けに都市に行くのか、それともそれ長野県のつながりを大切にして、そういう企業に就職するのかということで、今、半々で迷っています。

【長野県知事 阿部守一】

はいL君、ちょっと、では少し後で話そうか、Fさんは。

○Fさん

私も長野県に就職するか、東京で就職するか悩んでいるんですけども、やっぱり東京には大きい介護施設、名前が知れた介護施設というのがあるので、そういう大きな施設で経験をたくさん積んで学んでいきたいなと思っています。

【長野県知事 阿部守一】

そうね、わかりました。あまり私がいろいろ発言して、バイアスかけて選択を誤らせてはいけないからどうしようかなと思っているけれども。

まずITね。去年、長野県立大学をつくって、その理事長にソニーの社長をやっていた安藤邦武さんという人をお迎えしたんです。安藤理事長と、それから経営者協会の、八十二銀行の会長をしていた山浦会長から要請をいただいて、長野県で信州ITバレーをつくれというふうに言われていて、今、話してもらったように、まだまだIT系の企業の集積は長野県は弱いと私も思います。思っていますけれども、多分、

これからIT関係の人たちというのは、むしろ大都市じゃなくてもいいんじゃないかと私は思っています。

長野県では「おためしナガノ」というIT関係の人たちが試しに長野に住んでワーキングスペースで働いてもらうことを支援したりして、結構、そういう人たちも来ているし、例えばヤフーとかグーグルとか、そういう人たちも白馬だとか軽井沢とか、そういうところに家を持っていたり、活動する場所を持っていたりもするようなこともだいぶふえてきています。確かに東京とか大都市のほうが人は大勢いるので、いろいろな機会が多いと思います。

ただ、私が逆に感じているのは、私は東京で生まれ育ったので、東京も信州もそれぞれいいところがあるんだけど、やっぱり、例えばいろいろな人と、キーパーソンと出会う機会は長野県のほうが圧倒的にあるんです。東京とかだと、いっぱい人がいてつながらない、つながらない。私の実感として、私は今こういう仕事をさせてもらっているので、結構いろいろな人とつながりやすい立場なんですけれども、東京だとなかなか人と人とが、しかも自分がアクセスしたいと思っているような人にはなかなかつながらないと思います、人が多過ぎて。

小池都知事もこういうことをやっているかもしれないけれども、あまり知事とは直接話せないと思います。だから、何かそういうことも加味して考えてもらえるといいかなというふうに思います。

それから介護ね。介護はこれから大都市のほうが負担が重く大変になってくると思います。それは学んでいるかもしれないけれども。

長野県なんかは高齢者の絶対数のピークはもうほぼ来ている感じがするので、実は東京周辺のベッドタウンとかのほうがどんどんどんどん介護ニーズは高くなっているんで、我々、都道府県とか市町村の自治体の経営からすると、実は都市部の自治体のほうが、これから医療費とか介護費の負担は相当ふえていくんじゃないかというふうに思います。そういう意味では介護ニーズが高まるのは都会のほうが高くなるかなというふうに思います。

でも、介護の問題というのは、やっぱり人と人とのつながりとかの、触れ合いとかの話なんで、やっぱり私は慣れ親しんだ長野県で就職を考えてもらえるといいなというふうには思うけれども、あまり足を引っ張りません。多分、自分で選択してもらったほうがいいなというふうに思います。

ちょっともう一つだけ、これ介護の話で、大きくて有名なところがあるという話だけ、これ、多分いろいろな産業分野でもあると思うんですね。名前も知らない小さな

企業と、それから年中、宣伝をやっているような大きな企業、それ、私、別にどっちがいい悪いではなくて、一長一短、みんなあるんだと思っています。さっきの東京と信州も、私は東京が絶対だめだとは思わないし、長野県はいい県だと私は自信を持って言えますけれども、ただ長野県だって課題はいっぱいあるから、多分、絶対的にどっちがベストだということはないんだと思います。ただ、人によって合うか合わないというのはどんなことでもあるので、やっぱり自分に合った、何か人に流されたりするんじゃないで、あるいは何というか、単に有名だからとかということではなくて、やっぱり自分ってどんなところが、どういう働き方が向いているのかなとか、どういう暮らし方が合っているのかなというのは、よく考えたほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

例えばちょっと私の例で言うと、私は実は高校を1回途中で変わっています。高校、嫌だからやめたんですね。ちょっとわがままなんですけれども。で、通っていた高校は、世の中の的にはいい学校ですよ。世の中の的には例えば偏差値だとか、多分、普通にはいい学校だということなんですけれども、私にとって合わないんですよ。だから途中でさっきの都立西高校に編入したんですけれども、多分、働く場も暮らす場所も同じで、例えばFさんには合うけれども私には合わない職場だとか、私には合うけれどもFさんは合わない住む場所というのは確実にあって、みんなそれぞれ違うので、人それぞれ個性もあるし、やりたいこととか、暮らしたいこととか、仕事の仕方だって、望んでいる仕事のやり方というのは違うと思うんですよ。例えば、やっぱり県庁というのはすごく大きな組織ですね。例えば長野県の中では県庁へ就職したいという人が結構いていただいているので、私としてはありがたいことだと思います。

昨日、夕方、県の若手職員が楽しく働くにはどうすればいいかというのを、外部から人を呼んで来て、パナソニックに勤めていて、One Panasonicということと、今、ONE JAPAN ということをやっている濱松さんという人を講師に呼んで来て、県の職員とか市町村の職員とかを集めて、楽しく働くのというのはどうすればいいののを考えてんです。

やっぱり大組織って、パナソニックにしても長野県庁にしても、例えば信用力もあったりするし、あるいは長年の伝統もあるし、それこそ、長野県庁を知らない長野県民は多分いないと思うし、いいことがいっぱいありますよね。いいこといっぱいあるけれども、でも働いている若者と話すと、やっぱり組織縦割りだよとか、私がこんなこと言っちゃいけないけど、風通しが悪いんじゃないのとか、やりたいことを、必ずしもやりたいようにできるチャンスがそんなに多くはないんじゃないかと。そうい

うのは私が改善しなければいけないんですけれども、例えば大企業とか大組織って絶対そうなるんですよ、絶対そうなる。

小さい組織というのは自分がやりたいことを、例えば数人でやっていけば、あるいは一人で個人事業主になれば、リスクもあつたり大変なことも多いけれども、自分のやりたいことをやれますよね。県庁に来たら、知事がこういう方針だから、知事の方針と違うことをやりたいなと思っても多分やれない。多少、やれる余地はあるけれども、でも、私が絶対これはこうしようと言っていることに対して反発してやらないというわけにはいかないですよ。

自分でやったり、あるいは小規模な会社で仲間とやれば、そういうことは多分ないので、それって、どっちがいいとかどっちが悪いとかじゃなくて、多分、自分がどんな働き方をしたいのということによるんだと思うんですよ。

それから暮らしも、東京の暮らしと松本の暮らしってだいぶ違うと思います。人がいっぱいいて満員電車で通うのが楽しくて、そういう人は、もしかしたら東京のほうがいいかもしれないんだけど、私はちょっと最近、東京へ行くと疲れます。ちょっと年取ったせいもあるかもしれないんですけれども、目が回るよね、人が多くて。信州にいてなじんでいるので、どうも満員電車で人の背中を押ししたりして、無理やり乗り込む気には全くならないと思っています。

長時間かけて通勤したりとか、あと、どっか遊びに行こうと思ったら、大渋滞とか大混雑に巻き込まれながら遊びに行く。信州だったら、ちょっとスキーへ行こうと、温泉へ行こうと思ったらほいほい行けちゃうじゃないですか、東京でそんなことはできないですよ。

それも一概にどっちがいいとか、どっちが悪いじゃなくて、自分にはどっちのほうが合っているのと、自分はどういう暮らしをしたいの、どういう働き方をしたいのということによるんだというふうに思っているので、ぜひLさんもFさんは悩んでいるので、ちょっと私は、どっちがいいとは言えないので、また、これ悩むことも大事なので、ぜひいろいろ悩んでみてください。よろしくお願いします。

ちょっと、私、いっぱい話し過ぎたので、少し、内川先生に戻させていただいて、いいですか、ちょっと進行してもらっちゃって。

【進行役：内川校長】

では、ここから皆さんのご意見をいろいろ聞きたいと思います。

今日は実は卒業生が何人か来ていますので、2つ教えてほしいんですが、1つは専門学校で学び一番役に立ったこと。もう1つは専門学校時代から今まで含めてですが、思い出、思い出って遊びだけではなくて、何が一番魅力的だったか何が一番楽しかったか、振り返ってみていかがだったでしょうか、そんなことを聞きたいと思います。

では、順番でお願いしようかと思いますが、丸の内ビジネス専門学校のビジネス科卒業生、Iさんはいかがでしたか？

○Iさん

丸の内ビジネス専門学校ビジネス科を卒業した、私、Iと申します。現在、印刷会社に就職しています。

そうですね、ここではほかの専門学校様では絶対学べないようなことというの、例えば看護だったら看護のこと、調理だったら調理だけというわけではないんですけども、かなり特化しているというのもあると思うんですけども、やっぱりこの学校はいろいろな幅広い分野でビジネスのこと、ビジネスといっても幅は広いんですけども、電話の対応だったり、言葉づかいだったり、そうですね、基本的なことをまず教えていただいた上で、その応用だったりとか、自分は入学したときには、この時代、やっぱりパソコンを使えないと、どこにいても通用しないという感じで勉強させていただいたんですけども、いろいろな資格を取れるようになってから、そうですね、色だったりとかというのは自分がかかなりはまったのがあったので、色彩の勉強をさせていただいて、今、色に関わる仕事ができたのかなとは思っております。

やっぱり、ここで学んだことが仕事に生かしているかどうかというのは、最初は実感はなかったんですけども、やっていくうちに、自分はもともと現場で働いていたんですけども、営業のほうに異動してからは人前に入る仕事になったので、やっぱり壁に耳あり障子に目ありではないですけども、誰がどこで見ているのかわからないので、そういうところでこう、ここで学んだビジネスだったりというようなことが、現在、生かされているのではないかなとは思っています。

そうですね、この学校に入学しての思い出ではないですけども、いろいろな留学生とか外国の方が多いので、どのような形で接していこうかなとは、最初、すごい戸惑いはあったんですけども、自分もともと、高校のときにダンスをやっておりまして、言葉では伝わらないんですけども、踊りでコミュニケーションを取っていくうちに仲よくなれたりだとかというようなことがありました。

コミュニケーションのとり方はいっぱいあるとは思いますが、そこでやっぱり自分の得意なところを生かして、仲間を増やしていけて、勉強もそうですけれども、仕事もそうだと思うんですけれども、一人では絶対できないとは思いますが。その、そういうところで、仲間がいればこう励みになったりもするので、やっぱり丸の内ビジネス専門学校に入学させていただいて、勉強もそうなんですけれども、それ以外のことも、いろいろなことも学ばせていただいたのかなとは思っておりません、以上です。

【進行役：内川校長】

では、次は松本理容美容専門学校の M さん、お願いします。

○M さん

松本理容美容専門学校を卒業した M と申します。まだ 4 月から就職なので、役に立ったというのはまだ正直ないんですけれども、でも、授業の一環で実習に美容室に行かせていただいた際に、シャンプーをやってみてと言われてまして、技術はまだなかなか美容室さんに追いつく技術ではないんですが、言われてすぐできるような技術は身に付いていて、役に立っています。

思い出は、そうですね、松本理容美容専門学校のヘアショーというのがありますが、グループになって一人のモデルをつくって、生徒だけでショーをつくるというヘアショーがありまして、それはもうみんな考えて協力して、友だちともぶつかったこともあったんですけれども、結果的には、自分の中ではすばらしいショーをつくり上げることができたので、それが一番の思い出かなと思います。

【長野県知事 阿部守一】

どうもありがとうございます。

【進行役：内川校長】

美容だとインターンシップは何日くらいやりますか？

○M さん

私は一週間くらいを 2 回やります、1 年生のときと 2 年生のときに、はい。

【進行役：内川校長】

理容科の、Nさんもやっぱりインターシップみたいなものはありますか？

○Nさん

松本理容美容専門学校を卒業しましたNです。そうですね、私も美容科と同じでインターンシップは1年生の終わりと、あと2年生の初めに1週間ずつあったのですが、そこで出会った仲間の方と一緒に仕事をしたり教えていただく中で、そういうご縁もあって、自分も4月から県内に就職するのですが、そういった実習でご縁があってそこに就職することができたり、学校生活の中でも地元のサロンの方が教えてに来てくださることも何回もあったので、そういった地元の就職へのパイプは強くて、私はこの学校に通えてよかったなと思っています。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。では卒業生の皆さんに伺いたいと思います。大原スポーツ公務員専門学校のKさんはいかがですか？

○Kさん

専門学校で学んでいて役に立ったことは、私は公務員コースにいたので、ほかの皆さんのように何か資格をたくさん取るということではなくて、一般教養の学習を2年間行っておりました。

2年間の中で唯一取った資格が電卓検定というものです。現在、会計室という部署に勤務しております。そこでは、各市町村からいろいろな企業の方に支払うための請求書などに電卓を通すことが多いので、学生の当時は何でこんなに電卓を一生懸命叩いているんだろうと思っていたことが、今ではすごく生きています。

また、進路が決まってからは、電話の効果測定やエクセル、ワードのことも少し勉強しました。電話は、入庁してから何もわからない中で、新人の一番の仕事だということですぐに取って要件を伺う中でも、自信を持って誰がどんな用事があって、何に困っているのかというのを落ち着いて聞くことができたので、それも身についたなと思っていますし、小さい組織ですので年配の方との距離も近く、ワードやエクセルについての質問を受けたときにも応えることができ、解決することができたものも学習したことが生きているなと思っています。

学生時代の思い出として残っていることは、初めてのひとり暮らしをしたのですが、友人たちとテストの前には学習会を開いたりしたというのがすごく思い出に残っています。以上です。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。

【進行役：内川校長】

では、もう一人、大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校、介護福祉コースの〇さん、お願いします。

〇〇さん

大原学園松本校、卒業生の〇です。現在は南信地域の高齢者施設で介護福祉士として働いています。来月の4月で3年目を迎えます。

大原学園松本校で学んだことは、やっぱり介護福祉士という資格を2年間かけて勉強していくんですけども、私たちの代は国家試験PB、国家試験を受けなくても卒業時の共通試験で受かって合格すれば取れるということだったんですけども、やっぱり介護施設で高齢者の方と関わる中でやはり言葉使いだったり、授業の中で人生の先輩である利用者の方との関わりが深く学べて、資格も専門学校で学んでいる中で取得することで、現在、働いている施設では、働きながら資格を取る方もいらっちゃって、その働きながら取っている姿を見ると、やっぱり専門学校で学んできたことを一つ一つ教えることもできますし、資格を取りながら働くことの難しさも実感しています。

大原学園松本校での思い出としては、10月に各、大原学園さん全国規模でありまして、埼玉スーパーアリーナで集まって大運動会、スポーツフェスティバルを行うんですけども、それを行うに当たって、私が入学したときは本当に開校当時で、1期生としての出場だったので一から始めていくんですけども、大原学園の特徴の一つとしては、介護だけじゃなくて簿記だったり、医療、福祉、ビジネス、公務員といった学科があることで、応援団を務めさせていただいたんですけども、その中にやっぱり介護だけでなく、みんなで作って上げていくことの大切さ、横とのつながりを今も学んで、介護の現場では横のつながりが必要だということは在学中でも学んできましたので、本当に今、役立っております。以上です。

【進行役：内川校長】

ありがとうございました。もうお仕事をしている卒業生からのお話がありましたけれども、知事、この後、また先生方にも伺いたいと思いますが、今、卒業生でもう実際にお仕事をしている人たちに対して、阿部知事のほうから何か聞きたいこととかがありましたらいかがでしょう。

【長野県知事 阿部守一】

どうもありがとうございました。多分、幾つか共通している話があって、Iさんの話で仲間がいると励みになるという話と、それからMさんのヘアショーの話と、今のOさんの大運動会の話、やっぱり、何というか、多分、資格試験を受けるだけなら一人で勉強していても取れる資格というのもあるけれども、やっぱり専門学校で学んでいる良さというのは、友だちと体験を共有したり切磋琢磨したり、専門学校を通じて知り合った仲間たちと、これからもつながれるということが一つあるんだろうなというのを、今、お話を聞いていてすごく感じました。

やっぱり、人間って一人では生きていけないので、私も一人では何もできないし、知事の仕事をやっても、今日も県庁職員はいっぱいいるけれども、県の職員が仕事をしてくれていないと、私一人では何もできないので、それは多分、どこでも、この社会でもみんな同じだと思うんですね。

だからやっぱり人と人とのそのコミュニケーションのとり方だったり、何というか、人の気持ちを思う力だったり、そういうのってすごく大事なんで、ぜひ、専門学校で学んだ皆さんは、今、お話を聞いているとそういう経験を随分されてきているので、これからも専門学校で培った仲間も大事にしてもらいたいと思いますし、Oさんに言ってもらったように横のつながりというのは、介護だったら介護の分野だけでなく、広いつながりにしていってほしいなというふうに思っています。

さっきちょっと言いました昨日の話、その県庁をどうすればいいかというのは、やっぱりどうしてもそういう人たち同士で集まりやすいんですよ。公務員は公務員同士とか、介護の人たちは介護の人たちと。私、知事の仕事をしていて一番感じるのは、行政縦割りって言われるじゃないですか、縦割り行政。私、縦割り行政だと確かに思っています。でも、何かそういうポジションを分けなければいけないので、どうしてもそういうふうにはやらざるを得ないことがあるんですけども。私がいつも感じているのは、県民の皆さんも縦割りじゃないのと。仕事の分野で、何か同じような仲間とばかりつき合っていることってよくあるでしょう。それから、例えば、教育問題に

ついで知事に要請するというときに、保護者の人は保護者の人、先生は先生たち。もっと一緒にみんなで話し合いをしてから来ればいいのになとか思うことが結構あるわけですよ。

だから、ぜひ社会をよくしていくのは、私は知事の仕事としてよくしていかなければいけないし、行政の責任を持って変えていかなければいけないと思いますけれども、でもみんなが主役でしょ、国民主権の日本なんだから。民主主義社会なんだから。私に投票してもしていなくても、みんなが私を選んでいるわけですよ。こいつ嫌だと思ったらやめさせる権限も皆さんは持っているんです。ですから、社会にもっともって関わっていただいて、自分たちでできることは自分たちの力でよくしていったらいいと思うし、そのためにも、横のつながりというのはぜひ大事にしてもらいたいなというふうに思います。

それからNさんがおっしゃっていた、就職するときにいろいろ有利という話、専門学校、これまた内川校長にちょっとお聞きしたいんですが、専門学校って、やっぱり就職のことというのは相当、意識されていらっしゃるのですよね。

【進行役：内川校長】

そうですね。絶対100%じゃなきゃいけないみたいな感じですね。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。ちょっと、私、逆に内川校長に質問なんですけれども、例えば、私、今、知事の立場で、例えば高校と企業、あと大学と企業とか、もっと結びつけなければいけないと思っています。専門学校は、比較的企業の皆さんとはそういう連携はうまくいっているのか、あるいはもっとその専門学校で学ぶ人たちが就職しやすい環境だったり、あるいはいろいろな選択肢を自分で考えるためにもっといろいろな企業の人たちとつながっていく必要があるような気もするんですが、そういう企業との関係というのはどういう感じなんですか？

【進行役：内川校長】

そうですね、専門学校も職業に直結する分野が多いですので、多分、在校生のうちから企業ヘインターンシップで行くとか、実習をさせてもらうということがとても多いと思うんですね。その上で個人面談をして就職先を決めています。ですので、大学

よりは早い段階から実際の企業とそれぞれの学生の特性を見ながら進めているという面ではどこの専門学校も強いんじゃないかと思います。

特に地元で勉強している子は、地元の企業でインターンシップや実習を皆さんやりますよね。それでお互いにお見合いのようなもので、うまくいけばもうそこでお願いしますということがあるので、そういった面では、こういうコンパクトな地域でのつながりというのを、かなり上手に使えるのではないかなと思っています。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございました。いろいろな職種を目指している人たちがいるけれども、さっきNさん、インターンシップの話がありましたけれども、もう実際、企業でインターンシップとかを経験しているとか、もう企業の人たちと直接教えてもらったりしていますという人ってどれぐらいいるの。結構いますね。なるほど。

では、PさんやQさんは、どういう形で付き合っているんですか、実習をしにいつているわけ？ ちょっと少しお話ししてもらっていいですか？

○Pさん

私たちの学校では主には病院に実習に行かせていただいて、そこで先生方に教えていただいたり、実際に患者さんに携わらせていただいて、治療まで見せていただくという形で実習を行っています。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。Qさんは？

○Qさん

Pさんが言ったとおりなんですけれども、病院の先生とかかわらせていただく際に、先生たちから意見をもらうんじゃなくて、私たちから質問して先生から意見をもらうという制度をとっていて、自分たちから、わからないことがあれば先生に聞いて、その先生の言っていることを理解するという実習制度を取っているのです、すごく先生たちの考えを理解できる実習になっています。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど、いいですね。多分だんだん社会のあり方って、学ぶことと働くことというのがだんだん融合していくというか、私もいつまで知事の仕事やっているかわからないけれども、知事の仕事をやめたら、また全然違う仕事をやってみたいなという気もするので、そのときはもう一回、学びをどこかでしなければいけないというふうに思っていますし、人生 100 年時代でいろいろな働き方、今、働き方改革というのをやられていますけれども、いろいろな働き方とか生き方が出てきている中で、ただ昔みたいに単線型で、二十歳未満は学ぶ期間、そこから後はアウトプットで働く期間という形じゃなくて、常に、最初言ったように学び続けなければいけない社会になっていると思うし、さっきどなたか、仕事をしながら資格を取るという人も今は多いと思いますけれども、働きながら学んだり、学びながら働いたり、そういうことの繰り返しという生き方もどんどんふえてくると思うので、ぜひ皆さんには、今、学ぶ習慣というのは身につけていると思うので、ぜひ社会人になった後も、学びは終わっちゃったということではなくて、ぜひ学び続けていてもらいたいなというふうに思います。

【進行役：内川校長】

もう、あっという間に時間が進んできましたけれども、この後は先生方と、それからまだ発言していない皆さんにご意見を伺いたと思います。

コンパクトに言いたいことをまとめていただきたいんですが、教師の立場としては、自分たちの学生に何を身につけさせて社会に出したいか、どんなことに重きを置いているか、そのあたりをお伺いできますでしょうか。

では、左のほうから丸の内ビジネス専門学校の R 先生からお願いします。

○R 先生

R です。よろしくお願いします。

丸の内ビジネス専門学校では学生がいろいろな国から来ています。もちろん日本人学生もそうなんですけれども、20 カ国の学生が来ているんですけれども、うちの校長も言ったように、いろいろな国から来た学生が、専門学校というのは大学と違って短い時間でたくさん資格を取って、それで、特にうちの学校は自ら勉強して、自ら考えて、自ら行動しなさいというのがうちの学校の規律です。今までは県外へ就職した学生もたくさんいたんですけれども、最近、うちの校長は長野、信州で就職するのをす

ごく応援して、日本人学生も留学生も、去年も100%就職させました。ことしはうちの学校は年に2回入学式、卒業式があって、4月制、10月制、ほぼ、つながったりして、やっと10月生が就職、ほぼ全員決まりました、つい一昨日、3月卒業した学生が就職活動、インターンシップに行っ、インターンシップに行っている間にいろいろな会社の様子とか、あるいは企業さんからも学生の様子がわかっていて、そのまま就職するというとてもいい感じで就職させていただくこともあって、ほぼ半分ぐらいは内定しています。

これから、日本人学生は直接就職していくんですけども、留学生の皆さんはちょっとビザの問題があって、2年間で日本語コースで勉強して、ビジネス科でまた2年勉強して、4年勉強して、それでこの地域に貢献しているというのがとてもいいことじゃないかなと思っています。もう一つは、大学じゃなくて専門学校で勉強している皆さんをちょっと応援していただければと。先ほど奨学金というお話もありましたが、学校や分野に関係なく、どうしても大学生と一緒に就職するというのは難しいところもあって、だからその辺を、皆さん勉強する時間が短い中で、アルバイトをする日本人学生も留学生もいて、また就職活動をしないではいけないという中で、実際、私自身も留学を・・・

【進行役：内川校長】

10年前のうちの卒業生なんですね。R先生は。

海外からの留学生でうちで勉強して、今は松本で仕事をしている。その先輩を見て、実は後輩がたくさん来ています。

○R先生

それで、専門学生がどれだけ大変かと言うのは私がすごく感じていて、就職活動をするにも、東京で就職するのも本当に大変です。地元で就職するのも大変です。

もう一つは、私の経験から見ると、皆さん大きい会社でなくて、小さい会社、場所関係なく、会社は関係なく、こつこつと頑張っていれば、多分、すごく会社も大きくなるんじゃないかなと。実際1年前の、もう1年過ぎたかな。ベトナムから来た学生が本当に小さい会社で、もうだめかなと思った会社というところで就職してとても成果を上げたという、会社からも、社長さんからも言われて、皆さん、これからも頑張ってもらいたいというのがあります。以上です。

【進行役：内川校長】

では、松本調理師製菓師専門学校のS先生、いかがでしょうか。

○S先生

松本調理師製菓師専門学校ですので、製菓衛生師、調理師の免許をまず取得してもらおうということが一番大きな課題です。

やはり技術職ですので学生たちに教えているのは、まずその職場で働くための下地づくりを実習を通してどう伝えられるかということ意識しています。要するに製造業ですので、つくるための能率や法律、それから安全や衛生、そういったものの考え方や、それに必要な体の動かし方、そういったことを実習を通して、少しずつ身につけていてもらいたいなというように考えながらやっています。それに加えて職場で困らない基礎技術、そういったことを体にしっかりしみこませたいというのがあります。

最後に、こういった職業で続けていく覚悟を持ってもらえるように、やはり勤めてからが始まりなものですから、その中でいかに自分で積み重ねていく、そして続けていくという覚悟を持ち続けていてもらえるかなということ意識して、授業に当たっています。以上です。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。では、松本理容美容専門学校のT先生、お願いします。

○T先生

美容学校は、現在、全国で250校ほどあると言われてはいますが、県内では長野校、松本校と、これは姉妹校でして、2校が、およそ毎年、両校100名ずつ、およそ200名の入学生を受け入れているわけなんですけれども、やはり学校が2年制ですので、その2年間というものの途中でどれだけ学生に充実した教育を提供していくかということなんです、大体2年間の4分の1は国家試験重視のカリキュラムになっていきますので、あとの4分の3でいかに現場に即した人材を育成するかということなんです、2年間というのは若者にとっては長いんですけれども、やはり私のような年代になると本当にあつという間で、そのあつという間の2年間を、やはり入ったからにはやり通せと、迷うことも必要なんですけれども、やっぱり迷っているよりも2年間やり通していく、資格試験も免許も大切なんですけれども、2年間やめずに専門

学校卒業という学歴を身につけるとするのが一番の資格ではないかとは思っています。

ですが、毎年どうしても、残念ながら途中で休学、退学になってしまう学生というのがいるのが否めないんですけれども、決めたからにはやっぱりやり通していく2年間というものを、やはり学生にはぜひ実行してほしいですし、これは私の主観ですけれども、失敗したり悩んだりするというのが学生の特権であったり、成長の糧にもなるんですけれども、今、またこれからの日本の社会って、意外と若者の失敗が許されないような時代になりつつあるのかなと。その中で、リタイヤしてしまうということ結構この先、負のスキルといいますか、負の面で結構、ダメージが大きいんじゃないかなと思いますので、学生には真剣に考えていただきたいと、そんなようなことを希望します。ありがとうございました。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。それでは専門学校未来ビジネスカレッジのU先生、お願いします。

○U先生

こんにちは、松本市にあります学校法人未来学舎、未来ビジネスカレッジから来ました。本法人は3校ありまして、今日もそれぞれの学校から学生を連れてきました。私の学校は7学科抱えておりまして、それぞれ地域貢献というものを目標に、毎日実習であったり、今日つれてきた学生の一人は、ホテル観光ブライダル学科という学科で学生主体のウェディングパーティを学生自らが企画し、一般のお客様をもてなすようなことを学習しております。

もう一人の学生はクリエイティブデザイン学科と申しまして、地域の方からチラシですとかラベルデザインの依頼があった場合に、授業の一環として学生、先生たち、プロのデザイナーさんを交えて実際に製品化に務めています。

地域貢献を目指している理由の一つとしては、もちろん本当に貢献という意味もあるんですけれども、多くの保護者の方が学生に、地域で働いてほしいという願いをもって専門学校のほうに送ってくださる方が多いと思いますので、そちらを意識しながら、学校を運営しております。以上です。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。松本医療福祉専門学校、V先生、お願いします。

○V先生

うちは学科が二つあります。柱としては、一つはやはり資格の学習、もう一つは実習になります。

やはり専門学校に来る学生は入学時点ではやっぱりまだまだ、学習習慣が足りないのが事実です。やはり、うちは介護と医療ですけれども、仕事を始めてからも勉強していかないと、やはり質の高い仕事できません。その学習習慣が身につくのが、介護科では国家試験、それから医療秘書のほうも診療報酬請求事務という、かなりランクの高い資格がありますので、そこで実際に学習習慣がかなり身についています。

それからもう一つは実習なんですが、やはり私たちは学生に近い立場にありますので、どちらかという見方が学生寄りになってしまうことは事実なので、やっぱり世の中に出ていったときにそれではいけないので、実習の中で介護のほうは特養、老健、デイサービス、訪問、それから障がい者施設も全部行かせています。全部で70日ですけれども、その実習の現場の人からいろいろ評価やアドバイスを受けている中で足りない部分が充当できます。

それから医療秘書学科のほうも病院だけではなくて、保育園とそれから高齢者施設にも実習に行かせています。やはり高齢者の方とか、子どもと関わることも多いのでそれぞれ、そんなに日にちが多いわけではないですけれども、高齢者施設5日間、保育5日間、あと病院が2週間ですけれども、そんな中でやっぱりいろいろアドバイスをいただき、身びいきにならないようにカリキュラムをつくれる。それから専門学校はカリキュラムの自由度がかなりありますので、その辺のところを学生と、先生もそうなんですけれども、試行錯誤の中でやっていくことができるということが専門学校のいいところかなというふうに思っています。以上です。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。信州介護福祉専門学校、W先生。

○W先生

私が専門学校の教員として学校の魅力とか特徴と感じているのが、専門学校って社会と学校との橋渡し役ができると思うんですね。

うちは介護福祉学科ですけれども、学校の勉強の間に実習が5回あります。特に介護だと、施設とか病院とか、みんなありますけれども、そういうところで勉強をして社会に出て働く人の様子を見たりということがバランスよく組まれていますので、高校まで勉強中心で来た学生たちが社会に出ていくに当たって、上手に社会に入っていくように、仕事をするってどういうことなんだろうということが、少しずつわかってくるようにという、ソフトランディングといいましょうか、その学生が社会に出ていくに当たっての基本的なことから、プロ意識を持って働くという意識が高まってくるように指導していけるというのが専門学校の魅力の一つではないかと思えます。

あともう一つは、学校にいる間は、教員に質問すれば何らかの回答とか、アドバイスももらえるんですが、社会に出ていって壁にぶち当たったり、困ったことがあった場合に、今度は自分で考えて解決して乗り越えていかなければいけないので、自分で考える力というのを学校教育の中で、友人との交流だったり、教員との関係だったり、人間関係を気づいていく中で、自分で生きていく力というのを身につけるという意味でも、この専門学校という高等教育の魅力があり、役割を果たせるところではないかと思っています。以上です。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。信州リハビリテーション専門学校、X先生、お願いします。

○X先生

よろしくお願いします。本校は塩尻市の贄川というところにありまして、元贄川小学校の木造の校舎なんですけれども、廃校になったところを使わせていただいております。11年目になります。理学療法士のみです。理学療法士の養成校として、理学療法士のみの単科となっております。そういう点では少人数制といえるのではないかと思います。

理学療法士の養成は、4年制の大学もたくさんできているわけで、4年間で学ぶことがだんだん主流になりつつあるんですけれども、そんな中でも本校は3年間で学ぶということ、3年間で学ぶということは、1年でも早く社会に出られるということですね。その理由で学生さんたちが集まってくれていること、それが大きな特徴だと思います。

やはり臨床実習、実習というものは欠かせませんので、3年間の中で20週間の実習をこなします。学校で医学の勉強して、それから理学療法の専門的な知識を勉強して、そして実習に行ってみて、そしてまたさらに問題点、自分の課題を見つけて帰ってきて、また勉強を深めていくという、その繰り返しを行って、最終学年の3年生のときには16週間の実習を行って、徐々に徐々に成長しながら社会人になっていくということになっています。

地域で学んで地域で活躍するという、そういう学生たちを育てたいと思っております。実際に集まってきている学生には、できるだけ県内に就職をと、勧めております。また実習でも県立病院さんを初めとして、たくさんの病院さんに協力をさせていただいて、2年前に職業実践専門課程という認定もいただきまして、地域と密着して私たち一緒に学んでいき、学生たちも育てていきたいと考えています。今後もよろしく願いいたします。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。私、一言だけ追加しますと、丸の内ビジネス専門学校は、とにかくビジネスマナー、礼儀正しさを若い人たちに身につけなければいけないと、うるさくやっています。それと、誰よりも早く考えて動きなさい、何か物を取りに行くときは真っ先に取りにいきなさい。それが仕事のスタートかなということで、それを細かく指導していくのが専門学校かなというふうにも思っております。

だんだん時間が押してきまして、今日、意見を言っていない人が何人かいるので伺いたいんですが、あまりしゃべってもらえないので、今日の感想を皆さんに一言ずつ言ってもらいたいと思います。

例えば、知事に会えてよかったとか、今日は緊張したとか、専門学校で自信がついて就職を頑張りたいとか、一応、このぐらいの短さで言ってくれますか、ちょっと用意しておいてくださいね。

大原簿記情報ビジネスのYさん、いかがですか。

○Yさん

本日は本当に貴重な体験をさせていただきまして、ありがとうございました。私も県内の就職を考えておりまして、さらに自信を持って県内に就職していきたいと思っております。よろしく願いします。ありがとうございました。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。では同じくオフィスビジネスコース、Zさん、いかがですか。

○Zさん

今回の話の中で、学生の本音だったり願いだったりというのがいろいろ出ましたので、それをぜひ県政のほうに取り入れていただけたらなと思っております。以上です。

【進行役：内川校長】

非常にいいことを言ってくれたと思います。では、大原スポーツ公務員専門学校のJさん、お願いします。

○Jさん

本日は貴重な時間をありがとうございました。いろいろな専門学校の話が聞けてとてもいい経験になりました。ありがとうございます。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。同じくaさん。

○aさん

本日は貴重なお時間、ありがとうございました。なかなかほかの専門学校のお話を聞けることがないので、こういった機会はとても参考になりました。ありがとうございました。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。では松本医療福祉専門学校のbさん。

○bさん

今日はありがとうございました。私は大学を中退して専門に入ったのでいろいろな、それで、今、就職で悩んでいるので、いろいろなほかの学校の生徒の話を聞いて、とてもためになりました。ありがとうございました。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。同じく、介護福祉学科のcさん。

○cさん

本日はありがとうございました。私は4月から県内での就職が決まっているので頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

【進行役：内川校長】

専門学校未来ビジネスカレッジの、動物看護師学科のdさんお願いします。

○dさん

専門学校未来ビジネスカレッジのdと申します。本日はいろいろな学校のお話を聞いて、自分にも大変刺激になりましたし、4月から仕事で働くので、頑張っていきたいと思います。

【進行役：内川校長】

eさんはいらっしゃいますか、ではeさん。

○eさん

本日は貴重なお時間をありがとうございました。私も4月から松本勤務が決まっているので、また地域貢献のため頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。松本理容美容のfさん。

○fさん

私はビューティビジネス科で、エステティックを中心に学んでいるんですけども、もう来週、松本店志望で企業への面接が決まっているので、本日聞いたお話を参考にして、地域貢献を伝えていきたいと思います。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。松本調理師製菓師専門学校のgさん。

○gさん

今回はありがとうございました。いろいろな専門学校の話し合いと活動の内容が聞けてよかったです。ありがとうございました。

【進行役：内川校長】

では、丸の内ビジネス専門学校のhさん。

○hさん

本日は貴重な体験をさせていただきまして、ありがとうございました。

今日、いろいろな学校の皆さんに会えて意見を聞かせていただいたので、私自身、大変いい刺激になりました。4月から松本市で働くことが決まっていますので、今日聞けた意見を、自分の視野を広げることに参考にさせていただきながら頑張ろうと思います。ありがとうございました。

【進行役：内川校長】

ありがとうございます。同じくiさん。

○iさん

知事の話や直接聞いたり、ほかの専門学校の人の話を聞くというのはめったにない機会なので、ためになりました。ありがとうございます。

【進行役：内川校長】

ありがとうございました。

最後に、先ほど奨学金の話もありましたけれども、奨学金とか補助金とかあったら、もう少し学生のためにいろいろできるかなというので、県知事は今日、直接お会いしたので、ぜひこのあたりの教育の分野の予算を取っていただけたら、私たちもっと頑張ります。

では最後に知事のほうから、そろそろ締め時間にもなります。では、コメントお願いいたします。

【長野県知事 阿部守一】

では、今日はありがとうございました。ちょっと先生方のコメントに反応していないので、ちょっと反応させていただくと。

R先生の、外国人の話はちょっと今日もお三方からお話し伺ったので、これから長野県も外国籍の方たちともっと共生できる社会にしていかなければいけないと思っていますので、そこは働く側面と、それから暮らしの側面と、両面でこれから県としての方針を立てていきたいと思っていますので、その中にこの留学生の皆さんとか、あるいは専門学校のことも念頭に置きながら対応していく方針を考えていきたいと思っていますので、ありがとうございます。

それからちょっと個別にコメントしている時間がないのでざっくり。先生方のお話で、一つはやっぱり地域密着、地域貢献、あるいは社会と学校をつなぐという、専門学校の役割のお話があったと思います。

先ほども少し申し上げましたけれども、例えば県立の高校なんかと地域社会とはもっともつなげるようにしていかなければいけないというふうに思っていて、今、県内の高校は、公立高校は信州学というのをやってもらうようにしていますので、専門学校の皆さんともぜひ何かそういう、地域とどうつながるかとか、あるいは地域のことを、冒頭、ちょっと申し上げましたけれども、若い人たちと私、話をしている、実はあんまり地域のことがわかっていないと。こんな企業、あんな企業とか、あんなこんな特産物とかがあるのにあまり知らない人もいますので、本当は専門学校に行く前の高校とか中学校で教えなければいけないんですけれども、場合によったら専門学校で少し、何かそういうことも教えてもらうようなことを考える必要があるのかなというふうに思いましたし、我々行政は、これから地域のコーディネーター役をやらなければいけないと思っていますので、今、内川校長からは奨学金とか補助金という話がありましたので、それも考えますが、それだけじゃなくて、もっと我々つながりをつくる役割を果たしていかなければいけないと思うので、またそこは別途、今日は学んでいる人たちの話を聞いたので、今度は経営している人たちとちょっと話をしたいなと思っていますので、よろしく願いいたします。

それから、もう一つの論点が、続ける、S先生が続ける覚悟とおっしゃって、それからT先生からやり抜くというお話があって、実はここら辺の話は結構、私は大事なんじゃないかと思っています、ちょっとみんなにもう一回だけ質問させてもらいたいですけれども、専門学校に入って自分は前より勉強するようになったと思っている人はどれぐらいいるの？ ほとんどだよ。みんなの話を聞いていると何となくそう

いう感じがするんだよね。ではなんでそうなんだろう、誰か教えて？なぜそうなったの、なぜ、高校までよりは一生懸命やろうという気になったのはどうして？何でもいいけれど、どうぞ。

○女 性

いっぱい資格を取りたくて。

【長野県知事 阿部守一】

資格を取りたくて、ありがとうございます。

【長野県知事 阿部守一】

ほかの人たちは、みんな資格を目指していると、はい、どうぞ。

○女 性

私が大原の専門学校に決めたのは、要は大学に落ちたことがきっかけです。最終的には保健師になりたかったのですが、その就職先として最終的には村役場に勤めたいと思っていました。

で、自分の選択肢をこれ以上狭めてはいけないという危機感があったので、専門学校では真剣に勉強に取り組むようになりました。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど、あれ高校のときは何で勉強しないの？

【進行役：内川校長】

高校の勉強と専門学校の勉強は全然違うのかな。

【長野県知事 阿部守一】

どうちがうの、そこら辺、ちょっと教えてくれない？

【進行役：内川校長】

いかがでしょう。

○女 性

高校のときの勉強と専門の勉強は全然違って、美容なので、自分の感性を磨かなければいけない、メイクの技術だったりだとか、ヘアアレンジだとか、そういうのを人にやっていくというのは高校のときには全然意識しなかったのが、改めて勉強しなければいけないと思って、そういうところは勉強していました。

【長野県知事 阿部守一】

自分の、学んでいることと自分の問題意識はすごく近いの？

○女 性

そうですね。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございました。ではどうぞ。

○男 性

うちの学校、大原学園なんですけれども、何というんですかね、本気になったら大原というぐらいなんですけれども。

やっぱり高校のとき、本気になっていなくて、逆にやることが多過ぎて、何をやってたらいいかかわからないというのが一番ありました。だけど大原に入ったら、やることはもう本当に一個でした。僕のいるのは経理のコースなんですけれども、経理について学んでという、もう、一つに特化していることによって何をやってたらいいという、目標が明確化されていることによって自分は勉強するようになったなというのは実感しています。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど、ありがとうございました。確かに高校とかはあれもこれもやり過ぎだよ。やり過ぎだし、ちょっと時間がないから、あんまり私の個人的な教育論を語ってもしょうがないかもしれないけれども、ドイツとかはマイスター制度とかと違って、その分野を極めて、かつ次の世代を育成するような人たちは社会的にすごく尊敬されるポジションになっていて、私は日本の社会ももっともっとそういう方向にしていってほしいんじゃないかなというふうに思っていて、大学も、何となく、何をやるた

めに学んでいるかわからないで学んでいることが結構多いんじゃないかというふうに思っているんだけど、もちろん、自分の人生の選択をどの段階でやるかというのは、これまた人によって違うと思うんだけど、私はやっぱりもっと早く決めて、これでやるぞと決められる人はもっと早く、その道に行けるようにしてあげたほうがいいんだけど、何となくモラトリアム期間が日本の場合は、下手すると大学へ入って大学院までモラトリアム的になってしまう場合もあるので、少しそういうことも考えなければいけないのかなとか、皆さんの話を聞いていて感じました。

ちょっと専門学校の人たちとまたよくご相談したいと思っているんですけど、今、私が問題意識を持っているのは、実は義務教育の小学校、中学校は学校に来なかったと言ったら、学校に来ない子どもたちまで全部フォローしないといけない、当たり前ですよ、義務教育だから。高校以上になってしまうと、そもそも学校に来なくてもいいので行政の目から離れています。

もちろん、私は行政があまり何でもかんでも口出ししたりしないほうがいいと思っていますけれども、今、社会的にいろいろなことが問題になっていて、つまり若いころの例えば生活習慣で、例えば引きこもりになってしまうとか、あるいは若い人たちの自殺の問題とか、そういうことがある中で、実はちょっと若い人たちをもうちょっとちゃんと社会がフォローしないとイケなくて、それは義務教育段階だけでなく、もっと高校だったり、あるいは専門学校だったり、そういったところまで含めて考えていく必要があるのではないのかなというふうに思っているんで、そこはちょっと学校の皆さんとよく、また別途機会をつくってお話しをさせていきたいなというふうに思います。

5 知事総括コメント

ちょっと、写真を撮る時間も必要なようですので、これぐらいで私のお話は閉じたいと思いますけれども、今日、私は皆さんとお話しをさせていただいてすごく参考になりました。すごく参考になったということは幾つかありますけれども、専門学校はすごく地域密着だなと。職業のことをすごく意識してみんなが頑張って勉強しているんだなということがよくわかりましたし、また、長野県を発展させるためにも、そして日本を発展させていく上でも、若い皆さんが本当にやる気を持って、何というか、ただ何となくいるんじゃなくて、本当にこれをやりたいと、さっきのR先生の話とかすごくいい話だと思っていますけれども、自分の目と耳で体験して、本当にこれをやりたいというふうに思っていることをちゃんと後押ししてあげられるような教育シス

テムなり、社会にならなければいけないと思うので、ぜひそういう方向で長野県の運営の仕方は考えていきたいと思います。ほとんど人たちは長野県に残ってくれるということなので、とてもうれしく思っています。

さっき言ったように、私を選ぶのも長野県を変えるのもみんな皆さんですよね、社会を一緒になって変えていくパートナーとして、今日、場を一緒にさせてもらって、私は大変うれしく思っていますし、大変参考になりました。

ぜひこれからも、私も頑張りますし、皆さんもそれぞれの分野で地域が、社会がよりよくなるように、そして元気になるように頑張ってもらいたいと思いますのでよろしくお願いたします。今日はありがとうございました。

【進行役：内川校長】

それでは、最後に長野県企画振興部、広報県民課の加藤課長様からお願いします。

6 閉会

【加藤広報県民課長】

どうもありがとうございました。進行役の内川先生、本当に今日はありがとうございました。

これで県政タウンミーティングを終わりにしたいと思いますけれども、お手元のアンケート用紙に、今日の感想、それから、こういった場面をたくさんつくっていきたいと思っていますので、よりよいものにするためにぜひ記入していただいて、この回収箱を置きますので入れていってください。

(以上)